

一般財団法人丸文財団  
交流研究助成 候補者推薦要領  
第 29 回（令和 7 年度）

## 1. 趣 旨

日本国内の大学または公的研究所等の研究機関(以下、「当該研究機関」という)から海外の大学及び公的研究機関へ派遣する日本人若手研究者、または日本国内の大学または公的研究所等の研究機関に受け入れる外国人若手研究者の交流研究費や共同研究費等、または将来これら交流研究、共同研究に発展すると期待される研究活動に従事する国内外の留学生の研究費等を助成することにより、若手研究者の自立した研究を支援するものです。なお助成金の使途については研究者の所属組織の規定に則り、適正に会計処理される限り制約はありません。

## 2. 対 象 技 術 分 野

原則として以下のエレクトロニクス関連分野を助成対象とします。

- ① 集積エレクトロニクス及び情報システム応用
- ② 光エレクトロニクス
- ③ 先端材料・デバイス及びシステム
- ④ エネルギー・環境エレクトロニクス
- ⑤ バイオ・医用エレクトロニクス

## 3. 助成候補者資格

上記2の対象技術分野に従事する研究者および大学院生(博士課程後期)で、以下の条件を満たす方

1) 2026 年 3 月 31 日現在で 35 歳以下の方

(ただし、特別な理由がある場合は別途考慮します。)

2) 助成期間中(2025 年 9 月 1 日から 2027 年 3 月 31 日まで)に次のいずれかに該当し、本交流研究助成の必要度が高く助成により研究進展が期待できる方

(A) 当該研究機関が、交流研究または共同研究等の目的で、海外の他の研究機関等へ派遣する日本人研究者及び大学院生(博士課程後期)または将来の交流研究等が期待される日本人留学生で以下の条件を満たす方

- ① 共同研究等で、国外の研究機関等に派遣する場合は、助成期間内に同一研究者が同一研究目的で連続または累計で、派遣期間が2ヶ月以上であり、受入先責任者の同意があり、派遣元責任者の推薦を受けることが可能な方
- ② 海外の大学院博士課程に学位取得等の目的で留学する場合で、受入先大学院の同意があり、出身大学院の推薦を受けることが可能な方

### 《海外研究特別奨励》

助成候補者が年齢 32 歳以下で、当該派遣が研究者としての将来に特に重要であると判断できる場合は、《海外研究特別奨励》の上乗せ申請が可能です。

- (B) 当該研究機関が、交流研究および国際共同研究等で海外から受入れる外国人研究者、および将来の交流研究等が期待される外国人留学生で、以下の条件を満たす方
- ① 国際共同研究等で受入れる場合は、助成期間内に同一研究者が同一研究目的で、連続または累計で、受入期間が3ヶ月以上であり、受入元責任者の推薦を受けることが可能な方
  - ② 日本国内の大学院博士課程後期に在籍し、その責任者の推薦を受けることが可能な方  
(ただし、特別な理由がある場合は、大学院前期課程に在籍し博士課程後期進学予定の方も可)

#### 4. 助成内容

- 1) 助成金総額: 1,600万円以内(1件につき原則として上限150万円、ただし急激な日本円為替レート変動やインフレ等によっては上乗せを考慮する)  
※海外へ派遣される日本人研究者の場合は、《海外研究特別奨励》の上乗せ助成が認められた場合、助成金上限は300万円になります。
- 2) 採択件数: 約12件程度
- 3) 助成期間: 原則として2025年9月1日から2027年3月31日までのうち、2ヶ月以上の派遣期間または3ヶ月以上の受入期間が助成対象になります(多少の期間変更は可)  
第1期分は、2025年9月から2026年8月までの派遣期間または受入期間とする。  
第2期分は、2026年4月から2027年3月までの派遣期間または受入期間とする。

#### 5. 推薦手続

- (1) 推薦者:
  - 1) 大学においては、学科長、主任教授等(直接の指導教官でも可)
  - 2) 公的研究機関においては、研究室長または研究部長等
- (2) 推薦件数:

推薦者1名につき、推薦数は1件
- (3) 推薦方法:

以下の書類を事務局あてに提出

  - (A) 研究者等の派遣: 様式-A「交流研究助成候補者推薦書 海外への派遣」  
「交流研究助成申請書」(候補者本人記載)
  - (B) 研究者等の招へい: 様式-B「交流研究助成候補者推薦書 海外からの招へい」  
「交流研究助成申請書」(候補者本人記載)

#### 6. 推薦依頼時期

##### 【第1期】

- 2025年3月1日(土): 受付開始  
2025年5月9日(金): 締切(必着)

##### 【第2期】

- 2025年7月1日(火): 受付開始  
2025年10月24日(金): 締切(必着)

## 7. 選考方法

助成受給者は書類審査の後、当財団の選考委員会で選考し理事会で決定します。

選考委員長：天野 浩（名古屋大学未来材料・システム研究所未来エレクトロニクス集積研究センター長・教授）

副委員長：内田 建（東京大学大学院工学系研究科教授）

副委員長：森 勇介（大阪大学大学院工学研究科教授）

選考委員：小野 輝男（京都大学化学研究所教授）

選考委員：金光 義彦（京都大学化学研究所特任教授）

選考委員：田中 雅明（東京大学大学院工学系研究科教授）

選考委員：馬場 俊彦（横浜国立大学大学院工学研究院教授）

選考委員：平川 一彦（東京大学名誉教授）

## 8. 結果の通知および助成金交付等

(1) 結果の通知：【第1期】2025年7月末まで（推薦者あて）

【第2期】2026年1月末まで（推薦者あて）

(2) 助成金の交付：【第1期】2025年8月

【第2期】2026年3月

(3) 贈呈式：2026年3月

## 9. 成果報告

助成受給者は助成期間終了後すみやかに所定の成果報告書を当財団に提出していただきます。

## 10. 推薦書等の送付先および連絡先

東京都中央区日本橋大伝馬町8番1号 丸文ダイヤビル8階（〒103-0011）

一般財団法人丸文財団

専務理事・事務局長 村越 義修

電話：03-3661-1881

FAX：03-3808-2959

URL：https://www.marubun-zaidan.jp/

助成推A

交流研究助成候補者推薦書  
海外への派遣（様式-A1）  
第29回（令和7年度）

年 月 日

一般財団法人丸文財団 御中

推薦者  
役職・氏名 \_\_\_\_\_ ・ \_\_\_\_\_ 印  
候補者との関係 \_\_\_\_\_  
所属機関名 \_\_\_\_\_  
所在地 〒 \_\_\_\_\_ ・ \_\_\_\_\_  
TEL \_\_\_\_\_ FAX \_\_\_\_\_ E-mail \_\_\_\_\_

下記の者を貴財団の交流研究助成(派遣)候補者として、申請書を確認・添付の上推薦いたします。

《海外研究特別奨励》上乗せ申請しますか？ 申請する 申請しない（いずれかをチェックしてください）

ふりがな \_\_\_\_\_ ローマ字（ファミリーネームは大文字で記載） \_\_\_\_\_ 国籍 \_\_\_\_\_  
氏名 \_\_\_\_\_ （ \_\_\_\_\_ ） \_\_\_\_\_  
所属機関名(学校名) \_\_\_\_\_  
身分 \_\_\_\_\_  
所在地 〒 \_\_\_\_\_ ・ \_\_\_\_\_  
TEL \_\_\_\_\_ FAX \_\_\_\_\_  
派遣先(研究機関名) \_\_\_\_\_

対象技術分野（いずれかをチェックしてください）

集積エレクトロニクス及び情報システム応用 光エレクトロニクス 先端材料・デバイス及びシステム  
エネルギー・環境エレクトロニクス バイオ・医用エレクトロニクス

研究題目（日本語表記）：

推薦理由（特に《海外研究特別奨励》上乗せ申請する場合は、候補者が研究者として能力が高く、将来有望であり、この海外派遣が重要であると判断する理由を、研究実績などを含め、なるべく具体的かつ簡潔に記入してください。また、大学院留学生の場合は、研究助成の必要性和有効性、将来の交流研究への発展可能性について述べてください。紙面不足の場合はA4用紙1枚以内で別紙を添付してください。）

助成申A

交流研究助成申請書（様式-A2）

第29回（令和7年度）

年 月 日

一般財団法人丸文財団 御中

申請者氏名 \_\_\_\_\_ 印 国籍 \_\_\_\_\_  
生年月日 \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日（2026年3月31日現在 \_\_\_\_\_ 歳） 性別 男 女  
所属機関名（学校名・学科等） \_\_\_\_\_  
所属機関での身分 \_\_\_\_\_  
所在地 〒 \_\_\_\_\_ ・ \_\_\_\_\_  
TEL \_\_\_\_\_ FAX \_\_\_\_\_ E-mail \_\_\_\_\_  
自宅住所 〒 \_\_\_\_\_ ・ \_\_\_\_\_  
TEL \_\_\_\_\_ FAX \_\_\_\_\_  
海外での受入機関 国名 \_\_\_\_\_  
研究機関名（学校名） \_\_\_\_\_

1 学歴・職歴（学位取得の時期）

2 希望助成金額と使途計画

使途計画について記載してください

希望助成金額 \_\_\_\_\_ 万円 \_\_\_\_\_

3 滞在の期間・滞在費等の受領と申請の状況・支出の実態と見込み・本助成の必要性

- ① 本助成対象となる海外での滞在期間 \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 ~ \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月（ \_\_\_\_\_ ヶ月）
- ② 日本で受給する給与や奨学金等滞在支援の受領状況
- 受給中の給与 \_\_\_\_\_ 万円/月（ \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 ~ \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月）（勤務先と職名） \_\_\_\_\_
- 受給中の奨学金等 \_\_\_\_\_ 万円/月（ \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 ~ \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月）（助成団体や制度名） \_\_\_\_\_
- 受給が確定している給与 \_\_\_\_\_ 万円/月（ \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 ~ \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月）（勤務先と職名） \_\_\_\_\_
- 受給が確定している奨学金等 \_\_\_\_\_ 万円/月（ \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 ~ \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月）（助成団体や制度名） \_\_\_\_\_
- ③ 給与や奨学金等滞在支援の申請状況
- 申請中の給与 \_\_\_\_\_ 万円/月（ \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 ~ \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月）（勤務先と職名） \_\_\_\_\_
- 申請中の奨学金等 \_\_\_\_\_ 万円/月（ \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 ~ \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月）（助成団体や制度名） \_\_\_\_\_
- ④ 支出の実態と見込み（年額）
- 滞在費 総額 \_\_\_\_\_ 万円（うち本助成による充当分 \_\_\_\_\_ 万円）
- 研究費 総額 \_\_\_\_\_ 万円（うち本助成による充当分 \_\_\_\_\_ 万円）
- その他 総額 \_\_\_\_\_ 万円（うち本助成による充当分 \_\_\_\_\_ 万円）

⑤ 本助成の必要性（具体的に説明してください）

---

---

---

---

4 研究の目的・特色・実績（紙面不足の場合はA4用紙1枚以内で別紙を添付してください）

5 受入れ研究機関等での交流研究又は共同研究の内容（具体的に記入してください）

6 今後の研究計画骨子・期待される成果 (予想される波及効果等)

7 本研究に関連する申請人本人の主要論文 (最近の論文を5件ほど記入してください)

**8 研究者としての将来展望**（《海外研究特別奨励》を上乗せ申請する場合のみ、ご記入ください。

研究者として、自身の研究をどのように考えているか、また研究テーマにどう取り組んでいるかなど、なるべく具体的かつ簡潔に記入してください。紙面不足の場合は A4 用紙 1 枚以内で別紙を添付してください。）

助 成 推 B

交流研究助成候補者推薦書  
海外からの招へい(様式-B1)  
第 29 回 (令和 7 年度)

年 月 日

一般財団法人丸文財団 御中

推 薦 者  
役 職・氏 名 \_\_\_\_\_・\_\_\_\_\_ 印

候補者との関係 \_\_\_\_\_

所 属 機 関 名 \_\_\_\_\_

所 在 地 〒 \_\_\_\_\_・\_\_\_\_\_

TEL \_\_\_\_\_ FAX \_\_\_\_\_ E-mail \_\_\_\_\_

下記の者を貴財団の交流研究(招聘)助成候補者として、申請書を確認・添付の上推薦いたします。

ふりがな \_\_\_\_\_ ローマ字(ファミリーネームは大文字で記載) \_\_\_\_\_ 国 籍 \_\_\_\_\_

氏 名 \_\_\_\_\_ ( \_\_\_\_\_ ) \_\_\_\_\_

受入機関名(学校名) \_\_\_\_\_

身 分 \_\_\_\_\_

所在地 〒 \_\_\_\_\_・\_\_\_\_\_

TEL \_\_\_\_\_ FAX \_\_\_\_\_

対象技術分野 (いずれかをチェックしてください)

集積エレクトロニクス及び情報システム応用 光エレクトロニクス 先端材料・デバイス及びシステム

エネルギー・環境エレクトロニクス バイオ・医用エレクトロニクス

研究題目 (日本語表記) :

推薦理由 (紙面不足の場合は A4 用紙 1 枚以内で別紙を添付ください。また、大学院留学生の場合は、研究助成の必要性和有効性、将来の交流研究への発展可能性について述べてください。)

助成申B

交流研究助成申請書（様式-B2）

第29回（令和7年度）

年 月 日

一般財団法人丸文財団 御中

申請者氏名 \_\_\_\_\_ 印 国籍 \_\_\_\_\_

生年月日 \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日（2026年3月31日現在 \_\_\_\_\_ 歳） 性別 男 女

日本での所属機関名（学校名・学科等） \_\_\_\_\_

所属機関での身分（職員等「雇用関係」のある場合は職名） \_\_\_\_\_

所在地 〒 \_\_\_\_\_ ・ \_\_\_\_\_

TEL \_\_\_\_\_ FAX \_\_\_\_\_ E-mail \_\_\_\_\_

自宅住所 〒 \_\_\_\_\_ ・ \_\_\_\_\_

TEL \_\_\_\_\_ FAX \_\_\_\_\_

出身国での所属機関名（学校名・学科等） \_\_\_\_\_

所属機関での身分（職員等「雇用関係」のある場合は職名） \_\_\_\_\_

1 学歴・職歴（学位取得の時期）

2 希望助成金額と使途計画

使途計画について記載してください

希望助成金額 \_\_\_\_\_ 万円 \_\_\_\_\_

3 滞在の期間・滞在費等の受領と申請の状況・支出の実態と見込み・本助成の必要性

① 本助成対象となる日本での滞在期間 \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 ~ \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月（ \_\_\_\_\_ ヶ月）

② 日本で受給する給与や奨学金等滞在支援の受領状況

受給中の給与 \_\_\_\_\_ 万円/月（ \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 ~ \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月）（勤務先と職名） \_\_\_\_\_

受給中の奨学金等 \_\_\_\_\_ 万円/月（ \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 ~ \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月）（助成団体や制度名） \_\_\_\_\_

受給が確定している給与 \_\_\_\_\_ 万円/月（ \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 ~ \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月）（勤務先と職名） \_\_\_\_\_

受給が確定している奨学金等 \_\_\_\_\_ 万円/月（ \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 ~ \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月）（助成団体や制度名） \_\_\_\_\_

③ 給与や奨学金等滞在支援の申請状況

申請中の給与 \_\_\_\_\_ 万円/月（ \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 ~ \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月）（勤務先と職名） \_\_\_\_\_

申請中の奨学金等 \_\_\_\_\_ 万円/月（ \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 ~ \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月）（助成団体や制度名） \_\_\_\_\_

④ 支出の実態と見込み（年額）

滞在費 総額 \_\_\_\_\_ 万円（うち本助成による充当分 \_\_\_\_\_ 万円）

研究費 総額 \_\_\_\_\_ 万円（うち本助成による充当分 \_\_\_\_\_ 万円）

その他 総額 \_\_\_\_\_ 万円（うち本助成による充当分 \_\_\_\_\_ 万円）

⑤ 本助成の必要性（具体的に説明してください）

---

---

---

---

4 研究の目的・特色・実績（紙面不足の場合はA4用紙1枚以内で別紙を添付してください）

5 受入れ研究機関等での交流研究又は共同研究の内容（具体的に記入してください）

6 今後の研究計画骨子・期待される成果 (予想される波及効果等)

7 本研究に関連する申請者本人の主要論文 (最近の論文を5件ほど記入してください)